六歌仙歌句集
秀

夢の菴茶毒の雨窓つれ〳〵行ひまゐ人の垣根よ
せる歌草庵の窓越に見ゆ
たつる時の月夜に
うしなはれ
あるべきは客
四季に
蝶掃の
此仏を

早稲田大学文学部図書
雲英末雄
53-7524

今我いとなむ所に人へ方角に我つくれる句さへ
角へとかく梨出来あるを見のそてをうとく歌く
おつ事貴き物あらはいかに月れの下に比光部我
代比圭林何の例繁男出乃さく参り給へ
得分こと人とこの方捨つ事歌人と乃寸
面白きあれ京ひのこと公と願のふを
ひとり我もひとこに句秀逸と撰ふり
何の次ものこ時乃及ものを捨乃愛見比

春一

織乃強あ梨こ比へと俗比高人農仏り伝弘
乃ふ光河ん比ものを見ふ見ものを見ものこへハ
さのこやはこ比こに歌集句集此
見分くあふ頃を明和七乃ときゆ冬
十二月都君東山園崎の屋乃庵比
雪形光に比来形くも蝶爰刑の師を出

凡例

此集題の仮名を考へ證句或古人なれと
古人の句或古に載すれとも人よりの句の所へ
あれとも歌の仏たゝうかゝれ載ぬ今の人の句を
その歌の句の下に書き或を取あり
四季の題の事毒によく志れ御筆を取人多有

歌ひ或はゝ〳〵ちゝを増山の井新〳〵式古今抄
抄〳〵奏拾遺百〳〵かを物語物語等の所あまた或
考〳〵題の取捨有也
四季の歌の中附句の更ゆて歌句の歌ゆきる
句〳〵或取捨又四方拾遺馬節今の歌
事の人の志へよりあるゝ花鳥夕寒食の歌の
吳國の仏法ゝ兎赤文奏昆波門功徳経の たゝ
ゆゝ有〳〵今改毒り猶〳〵歌事毒なへて

その姿情我さゝきれハ載ル

四季の歌ハ中略社の祢宜法寺の法事の歌ハ
悉く発句我拳たゝ歌まゝて遠き国の
事ハ歌に載ル侯たゝ京めゝて
まれ歌ゝ集ハ及ひゝ歌茉稚の御供鞍馬の供代
等他国ハ歌ハ二月事の祭ハ筑摩祭等の古く
吟及ひゝ歌一二ハ侯我拳ハ載ル人ハ
俗我志ハ載ル

四季の歌ハ中生歌植物の類ハ古今ハ載ル
発句ハ我ハ題ハ載ル我ハ載ル発句ハ載ル
後の人ハ載ル事を
四季ハ歌の名目ハ更ハ漢名字義をたゝ次
第ハ俗語の来ハ用ハ事ハ俗談ハ語ハ
義入ハ次ハ云ハ載ル我用

四季の歌ハ神祇釋教恋ハ述懐懐旧
羇旅名所等ハ歌ハ我ハ発ハ難の部と

東京都立中央図書館蔵

所〻に附録せ
ば老の次第成つるあるべき事の白の好悪ありて次
第の比者の時代を加へ書てとくに有る事〻
同時に人を混じて志るべきせ

類題發句集春部

正月

蝶夢編

元日

元朝や非代の事も扨も八郎　伊勢　守武

事も木も国出度そうしはきて　京　貞徳

数多農人を絶つ〻今朝の春　難波　宗因

元日や何よりたうん数わり事　江戸　忠知

元日に田ことの日ことを祈れ　伊賀　芭蕉

元日や楽り遠りの太力等ん　京　玄来

元日や時〻花扨うる梁　江戸　嵐雪

花の春　法の妻　侍子吟ふる歟望夫心
はかりてハあまたつくも花の春　去来　江戸
立春　雲ふるや墨ぬまとも所詠矢の根　許六　近江
はるゝ川や捨しハ捨て世に出ふり　野坡　難波
初日　春立てまもなく九日の船出うれ　芭蕉　尾張
初鶯　梅ふ垂の新ふり立ふる初いと　任行　尾張
初鶯　ふ川鶯やゆり忘の旅ちろ　支考　美濃
初鳥　沒のゝ鳥ふる越や忘の春　可風　近江
初ふ鳥ふ人ふ人ふ人ふ人ふ人ふ　野坡　難波
　　馬明

初夏　初夏や巣ふ人君ふ代　季吟　京
　　ふ夏や都ふ夏ふ日の光　安室
　　ふ夏ふ夏ふ夏ふ夏ふ夏ふ夏　石川　伊勢
紙墨筆墨　学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ学ふ　望一　京
年忘神　ふ忘ふ忘ふ忘ふ忘ふ忘ふ忘　休弁　江戸
　　ふ忘ふ忘ふ忘ふ忘ふ忘ふ忘　一蜂　尾張
元方柳　ふ柳や妹ふ小鐵ふ柳ふ望　夕道　京
　　傘ふ傘ふ傘ふ傘ふ傘ふ傘　咖軒　京
門の雲　雲ふ雲ふ人ふ人ふ人ふ人ふ　太柔　伊勢
　　月ふ月ふ月ふ月ふ月ふ月ふ　太芳　伊勢
　　松ふ松ふ松ふ松ふ松ふ松ふ

いの竹　蓋朶　楪　かさら縄　のちの炭　かさら海老　若水

松かさ　松かさ伊勢うあふ人多詠
もろ〳〵吹や　もろ〳〵ふる　もろ〳〵の雲井
〻〻ふる　東雲まねくそら花
四ほう　梨や　次第うあの大かさら
花つけり　千代　千代や　かさら縄
かさら　松縄や　御代の　直れく　花の
浦山　木や　地蔵　妻　うたち　炭
伊勢海老　ゆう　赤て　花　殺さく
和う水　やま　ふる　氷
見うあや　冬　薬　如　ひと

其角　嵐蘭　順也　立圃　可全　移竹　眠魚　玄梅　武仙　野坡

大根　新菜　蓬団　饒餅　屠蘇

若水や　赤と　ふく　筒井つ
和う水や　ふる　も　近　の　赤　の
大根　赤　玄　多　の　青　菜　の　白　れ
新菜　菜や　千代　の　数　う　く　花　れ
同　あ　ふ　さ　れ　嬉　も　参　う　雑　煮　ふ
蓬　赤　よ　梅　の　花　う　も　白　ひ　れ
蓬　か　く　め　ま　枝　の　る　く　七　国　生　れ
屠　の　歌　く　れ　さ　く　ら　れ　か　る　俳
ひ　ま　ひ　か　や　屠　蘇　も　赤　和　る　人　次　我
屠　蘇　さ　し　て　ふ　く　ま　ん　姫　の　子

伊勢　乙由　大和　吉山　尾張　防川　丹波　如竹　京　自悦　江戸　如行　加賀　北枝　尾張　巴雀　、荷兮　江戸　立志

大筈

蓬莱

喰積

掛鯛

野老

かち栗

串柿

稚儀

大筈武八幡宮内儀式
蓬莱の筈や大敷の役の始を先
蓬莱の作もや伊勢のそ川使
ほうらいは宛て敷同お参さ
こんぶや木曽の見ひの松をも
掛鯛や鯛の中ゆてロしと
知物ゆゆ鯉野老の乾老
かち栗や縁り和ゝ式先り
串柿やゆゝ一投り居ゝ
稚儀の歳者出を

春七

紀州 卯七
加賀 秋之坊
江戸 芭蕉
山店
伊勢 泥足
紀州 泉水
京 和暢
江戸 治圃
伊勢 長英
京 一思

撞

にゝ者

数の子

庭竈

福茶

初暦

書始

哥ゝ者速ゝ
かゝ子や我ゝ
敷意ゆゝ
庭かまゝ
福ゝや
初ゝ
一ゝ
筆ひゝ
大津画の筆

江戸 文鐵
出羽 千翁
芭蕉
加賀 其角
千代
伊勢 乙由
宗雨
山城 宗瀧
芭蕉

馬糞始　江戸　清門
弓法免　近江　木導
松葉始　尾張　昭房
若衣始　江戸　玄旨
松葉子　伊勢　山蜂
風始　南部　春波
　　京　今徳
　　南部　蕎中
　　江戸　友之

書て免や栃杉の庭の十文字
糞初てり下るあるやつの雲
袋うゝ初るも因幡ゝ雪はめ
舟ゝ赤小雲り雪の彩り色
若衣始志の張とも彩先
母方雲始先つゝや易志始
福菓の蜜ちいとゝ若衣始
ちゝ袋の波の敷や松やし
高砂や大おれ新ゝゝひそ先
ゝ糞ゝ糞の仕入て汎袋先

高始　伊勢　嵐蘭
栃下し　江戸　温故
鄙初　京　琴風
蕎屑　京　雲木
　　京　立圃
河豚始　出雲　琴風
若餅　筑法　舩男
　　尾張　和水
　　京　己静
　　京　言水

初市や雪よ清まるの若菜舩
荒市や生米も除雪ゝ河
一ゝ色の山さゝ先や栃杉
寸紙を先や解氷を引起
俳ちのゝ丸実八を祝へ若ひま
赤子ゝ丸ま引出拍せん花ゝ先
月雪雲ゝ山し役ん初河豚
新餅て師走のゝ山ゝ色
若餅や晴若のきて掲ゝ寄
ゝ玉て掲ゝ小節の舞孔

一万歳

大黒舞

鳥追

春駒

猿引

初蓮根

穂すき

〳〵玉の葉も方〳〵の歌の道
萬葉や新もうつふも欲所井
連てすてゝ子よ新もり万歳乗
万歳や左右うり新年松の伝
後ろ乗よ入るや新年福の神
鳥追や鳴り和歌まり方川
妻ちりや新の町ち小雲京
猿楽り入るゝあちれやさる巡
少も霞こ川京もも乗一太鼓の書
長生と新へるゝ九ち氏穂すき

江戸 宗陽
京 梅笠
尾張 一井
山城 去来
飛明
但馬 俊宗知
柳亀
京 巴静
近江 秋月
鯉遊

手球
羽子板
やり羽子

破魔弓
竇引

〳〵やり〳〵やわらか絵の絵小麦
振袖と行まに拳て手鞠れ
ちこ板やたゝよ国変ゝ新て
ちり羽子や国ゝ麦ちゝ妹ちり
やりちこやわこめよ交ゝ多女房
ち国弓や乳母ゝ子ゝ二人張
竇引り絶牛の角式たゝくゝ
竇引よ夜を乗ぬ鼓の徒乳
竇引や力てゝ麦ちゝ妹巴との
稲つ多や麦ち方の方へ枕ちん

京 童雪
但馬 孤舟
江戸 嵐雪
利牛
伊賀 木導
松舎
近江 其角
李由
加賀 雨青
伊賀 朝竹

御俳

年男

水祝

子日

小松引

若菜

おきうやや十日の雨の降ち兒
松の下幾千代ゝ歌ゝ男
竹ゝ男子秋楽を習ひ
板の月に舞ひ笑ひ水祝
ちはやぶる女房扨も水いとひ
一生のうしの保や為祝ひ
ちゝ春を能者ゝん初子日
喰へゝ色取引出る子のはゝ
乙ケ日兎抜ゝ祝ゝて小雲引
嵐翁ゝ書ゝ兎賣ゝ若菜ゝ

京 曉山、重軌
尾張 存泉
京 春澄
其角
摂津 抵川
去来
尾張 也有、白尼
也蕉

一ゝ色ゝ一度摘ゝ薺ゝ
七色ゝ若菜ゝ生ゝ色ゝ
書ゝ若菜ゝ世ゝ平ゝ初ゝ烟ゝ
雪ゝ畑ゝ出ゝ初ゝ若ゝ菜ゝ
摘抜ゝ踏分ゝ新若菜ゝ
行ゝ月ゝ分踏ゝ雪ゝ
破ゝ通ゝ若菜ゝ色ゝ色ゝ
ゝ月ゝ野ゝ踏分ゝ見ゝ跡
摘ゝ摘ゝ摘ゝ人ゝ若ゝ菜ゝ
ゝ風ゝ海ゝ古ゝ

、去芳
尾張 楚水
越中 浪化
路通
越後 惟然
加賀 万子
江戸 秋風
尾張 野水
雲

蓴雜

[illegible]くと重ねて来る蓴菜
[illegible]く水より七尋ばかり
[illegible]は高く枕の如かれ
名業つむ指の太さとあり男
[illegible]まで許て頁の高さ
七種やはやり[illegible]
[illegible]は白へ蓴れ
[illegible]さも蓴の
今の[illegible]の蓴[illegible]
七[illegible]や沼[illegible]の中

[illegible] 来山　乙由
加賀 希因
尾張 其秀
上州 一青
其角
伊賀、 猿雖
京 我黒
北枝

蓴粥

福涌し

初寅の系

木芽漬

春下し

[illegible]ふくらむ[illegible]
七くさや次まよたてく[illegible]
[illegible]板よさ[illegible]蓴[illegible]
[illegible]たてはの[illegible]氷
水鶏も[illegible]の蓴れ
[illegible]取て[illegible]蓴
[illegible]し[illegible]の水の月
[illegible]寅の沈[illegible]
[illegible]て去[illegible]の[illegible]木芽漬
花咲て岩と尾[illegible]の春おろし

江戸 景道
、 桃隣
武州 此翁
[illegible] 芙雀
江戸 弁休
武州 見示
近江 園入
貞位
山城 宜石
其角

具足燒開　左義長

綱引

小豆粥祝ふ　粥はしら

粥杖

節振舞

雲の内

雪の花くへうれしく春おもし　京　風國

伊勢湯屋の燒ひくよや具足樓　許六

ひのもとやたゝもやまた左義長　李吟

左義長や横雲ありてゆくはる　京　我鷗

綱ひよや蓋は海へ八百神の惡　尾張　龜遊

雪の後のちのにおや粥すら　近江　冬柏

かなはえよ迎春てうふ　京　三敷

新比丘尼引抜役や和田の名　近江　孟遠

雲取くく常の粥は某より　江戸　不角

昔月　御忌

木地の炬燵　義入

雪の花者と來きり松先内　近江　鉄石

正月を廿日ゝ春く新美ゝ　嵐雪

松ゝ崎耳ぬきくへしゝ見の後　京　其淡

ちゝ花女信の吉や御忌の夕　陸奥　玄高

掛ふくく木地の炬燵の白ゝ乳　素心

者又ゝや牛合忘れて大系近　其角

やゝゝやちゝ死ゝ炬燵ゝ　近江　里東

義入やゝ矣さへ新ちゝ　江戸　冶天

ゝ入の多衣たのく文はり　京　炽尺

者又入りゝのゝ孤して火燵ゝ　蓮之

福寿艸

木の芽

元日や母へ二日の宮詣之　伊豆 我半

去年へや姉に子孫摘ありし　京 素流

福寿草書に六日出る根さしけり　琴風

福寿草けさ咲初と誰へけり　近江 文素

能中や海の見ゆる木の芽かな　彦根 露治

そやさし咲ぬ梢も木の芽哉　尾張 露川

蓑虫の見えて居る木の芽哉　京 素浣

背戸の木のかくれかゝる木芽哉　伊勢 几兆

木の若芽出てやる士の詠　雪芝

此木の何ともなく芽吹けり　近江 半睡

下萌

埜立

若草

下萌や庭さへ踏む生　越中 二川

下萌や枯尾花を抄して　越後 北溟

下萌やつゝ下しまゝ舟の路　京 芦泊

埜立や花も咲さて打て居る　伊賀 松舟

若草や松より外は銭の色　南部 此筋

若草や摘子ず端は紅へ　美濃 兎市

若草や神をかの牛の舌　伊賀 已百

若草やまかせて置きし角田　伊勢 風睡

已に艸や青く影色の月夜　伊勢 杜菱

若草や安達か原も牛の角　温故

冬子の名集

梅

日ごろよのへにくく水て朱ゝりしう
敬こゝの新雪ゝ冬子のあ葉ゝ
梅ゝ実ゝりのゝと四の雪山ゝ
山つゝ雪ゝ萬葉逢ゝ雪の花
なゝのゝ新枝のゝはゝ梅の雪
梅の花ゝ雪ゝ雪ゝてゝ雪ひゝれ
行枝ゝり脉やかゝくゝ雪の花
壁ゝ咲枝ゝりつゝ雪や梅雪
雪ゝに日きうゝゝり梅のゝれ
変ゝてゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ雪ひゝ

戎中 汀文
かが 倚翠
芭蕉
、
其角
耒山
支考
近 尚白
洛迪
太来

閑ゝ立ゝく正月ゝやゝ雪の花
梅の雪ゝ火徒ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ
立ゝ雪ゝ梅木ゝ雪ひゝり梅ゝ雪
雪ゝ雪ゝ小雪ひゝ梅ゝ雪雪雪
雪一ゝ雪一梅雪ゝのゝゝゝ
雪雪咲雪ゝゝの野ゝれ枝の葉
ゝれくゝり咲枝ゝ梅の花
枝ゝゝ徒ゝ雪雪ゝれ
雪の雪ゝの月ゝゝ雪ゝ雪
幕ゝゝ人雪ゝ雪ゝ雪雪

猿雖
難波 涼菟
舎羅
、
風外
嵐雪
卑坡
、
玄芳
惟然
桃隣

のちの海とのみて教さけ春の宗
牛来新発の小ノ橋や梅ノ花　吳仙　菊川
梅の忘れ物ありけるよりうめ咲ぬ　伊賀　雪良
如光うやうやうの里をうしの角　尾張　哉人
枯ぬ八ノ枝ぬ梅ノ花　加賀　勾空
久ノ〜千年ほどのわりう春ノ花　武中　伎古
何ぞ我ぞ新ノ枝ノ梅の華　大阪　桃化
寒若しやうやうみよ咲や梅の花　吳仙　アさん
十八町勇ノ里ノ梅ノ忘　吳仙　曽九
春咲やノ片枝ノ仏ノ枝ノ　江戸　乙由
梅居

押

所ノ〜ノ新ノ花ノ春ありや梅ノ忘
春咲やノ何ノ俗ノ春ノ春ノ春
梅咲ノ〜ノ公ノ梅ノ花ノ春
八ノ百ノ百ノ〜ノ西ノ新ノ春ノ
傘ノ〜ノ押ノ分ノ尺ノ梅ノ新
孔やノ人ノ〜ノ俗ノ人ノ春ノ孔
古ノ俗ノ孔ノ〜ノ梅ノ〜ノ押ノ
之ノ六ノ本ノ〜ノ〜ノ新ノ押ノ孔
風ノ新ノ〜ノ西ノ西ノ孔ノ春ノ
春ノ有ノ山ノ春ノ春ノ春ノ人ノ〜ノ

出羽　嵐七
吳服　千代
吳服　五筑
芭蕉
、
吳服　不角
木因
太来
其角
女考

深水より月ゆうきあきを板ゑ
侍く曳くく馬の沓の音の那
吹度よ鍋の底ゑ柳ゑ路
柳より海を振りゑ山ゑ春ゑ
引ゑきゑく水ゑ春ゑ
人ゑの中へゑゑ春ゑ
海人ゑゑゑ日のあゑゑる柳ゑ
木瓜の眠り蔦ゑゑ春ゑ那
侍ゑこゑ月の夕べの春ゑ
川ゑへ海ゑゑゑ春ゑ

難波 由子
京 心子
加賀 一笑
仙亭
尾張 丈子
浪化
飛坡
琴風
江戸 素就
此節

風のゆく方ゑしるの春ゑ
丹波のさゑゑく風の板ゑ
足ゑゑゑ春ゑゑゑゑ柳ゑ
保柳や春の伝ゑゑ海ゑ
水ゑゑたへゑ侍ゑ春ゑ
吉直よゑ丹の侍ゑ春ゑ柳ゑ路
一本ゑ春ゑ柳ゑ柳の那
花ゑのゑ方ゑゑ柳ゑ
柳ゑゑのゑゑ侍ゑ春ゑ
春春や二ゑゑ三春ゑ木ゑ

加賀 飛水
牧者
小春
江戸 蘭子
三河 山川
京 梶後
助叟
尾張 乙由
木兒
柳居

春柳や花さく水も南しき　希因
給仕くさくさくさくさくと　京　風之
さんさらさらと水すり流るる柳ぶ
何うもく二月よ来しし春うれ　遠江　文素
青柳や如来仏すり春の色　江戸　乙兒
凍解り泥つれ咲や落のこう　近江　秋瓜
柳ぶ乃乃乃山の乾ぶや蕗の薹　茅堂
その白ひ孤鳴ぶてもぬすれ薹ぶ　摂津　狐坡
ふれ弟にたれ咲く乃乃嫁菜ぶ　江戸　汎休
二葉の蕗ぶ小やよあるれ　越後　すて
一字

蕗の薹
嫁菜

蔓菜
水菜
蔦蕨菜
芹
角く芦

胡麻ぶ出ぶく小鳥や河ぶ支蔓菜　江戸　東流
ふふふ生蔓菜　尾張　馬六
ぶれふふと芦ふ京の水菜ぶ　尚白

我弟と能の迎ー根芹ぶ　江戸　大草
ぶぶふふ花さぶふふ田芹ぶ　城中　拳白
芹ぶやむふふ迎ふ蔓の沼　紀後　十丈
芦菜ぶ敷ぶ敷の根芹ぶ　乙語
川流や淡城やさむふ芦の角　筑後　猿雄
さと迎へ河のやーさや芦の角　三惟

松の若緑

のびゝとゆう雨ぬ雲のみどりかな　京　滴水

結ぶ道の小雲や若ふかう　涼菟

思深こまつ松のそこもちや初ゝ緑　古芳

夜ぶかや初ゝ松葉みどり立　緑愛

麥の花

ゝゝもゝ笠ぬぎうへゝ雲の花　筑後　麿元

夕風やまの雲の花ちる麥畠　伊賀　冬李

千大根

ゝやゝん嫁菜まゝ千大根　京　信徳

味ゝ京の雲丸白ひや汁大根　駿河　黄良

海苔

駿ゝゝ雲や形の深海苔　北溟

海ゝゝ代菱ゝ毋の形端ゝ　摂津　素流

蕗薹

蕗薹ゝ雲ゝ池ゝ梅のちりしゝと　京　迷雨

山椒皮

山椒のかゝく皮ちゝゝ乾ぬゝ　摂津　君菜

山水や何ゝゝ清雲の味　江戸　其角

海苔

海ゝゝ吹なゝ風や磯のゝ雲　下総　素也

のゝ板やきゝへゝ波ぬ立海ゝ　安芸　爲石

蕗

ゝ雲ゝ雲ゝや園梅の蕗の笛ゝ　京　一幹

蕗ゝ雲ゝなゝ仏ゝ蕗ゝ笛ゝ　摂津　貝堂

ゝゝ雲ゝや雲のゝゝ蕗のお　芭蕉　蕗蕉

芭蕉
荷弓
毛角
文字
玄来
文秀
木因
胆坡
氣雲
北枝

巻十九

如行
斜岌
利牛
紀州 春川
普門
惟然
十丈
伊勢 及朱
浪化
越中 抹石

百千鳥

水葵鴨

白魚

鶯やかゝる杖へ起て行　遠江 菫子

ゝゝものゝ心も持て初音哉　廃元

鶯やおもしろ旅の古ごゝろ　已筑

百千鳥郷の老日和かな　尚白

川上の春ゝ梅に百ちる栗　其角

鶯鳴春にかゝれて春の雲　加賀 彦求

暖やさえつる鳥水のうへ　丹後 文泉

白魚やあへうれる汐の海　猿鞁

志ゝ実の餌可来ての池　京 貞隆

白魚や石子さいれは消ぬへし　江戸 拙風

干鱈

蜆

鮎

魚氷に上る

獺魚を祭

春風

白魚を汁につゝめる膳かな　近江 角呂

白魚の志れよ白ひや杖の笠　調升

白魚の價あることそなれ　京 循始

汐ゝ鱈のおもそかに春日影　句空

一升を加てよ湖から飲から　其角

湖も細おもて蜊や蜆から　山城 里亮

鮎や水へかゝ浅く湖の者　敦賀 孤私

魚見て破て春の氷の那　丹後 跨山

獺のまつり見て来て瀬田の雲　芭蕉

春風や麦の中行水の音　木導

雪解

雪風や三保の松原清見寺　兎黄
矣の点干ぬるも雪の風　許六
旋子の尾よ雪風ゆく日影ゆ　尚白
そろこの雪や汐の祝ふる松の雪　近江　潘川
関吉は長橋人雪乳〜春の風　江戸　蕉太
春かぜや布よ水まく小石原　加賀　既白
おきゝひの雪あふくや雪の跡　伊勢　春渚
雪折れ雪ちらしもやゝ長春の風　越中　康工
雪既ふりつゝ栗の枯葉ゆ　江戸　探爲
雪毎や旅へ出〜下駄の音　江戸　治徳

雪解や彩の剣木の芽一枝　摂津　水亜
かゞまりく蕨拡ゝる雪解ゆ　摂津　青雨
雪ふけて伊賀川越の柴藤原　尾張　曙巻
雪ゝ和やゝ乳あゝ藤原　京　孔雀
雪汁や給いの人切雪まゝ　伊賀　木公
俤くゝり塔の雪乃乳乳ゝ　乙物
扶起て畑越乃ゝ雪乃心　壬角
蕾の書ゝ雪ゝ乃ゝ雪の年　涼亮
のまゝ雪法氏の石く光ゝ　近江　正秀
雪のまゝ長岩や残ゝ雪　越前　虚公

雪汁
雪乃
残雪

春雪

春雪や海と空とよりまぎれて地と山と
色まぎらはしくて素波雪
春の雪雨かと見るは人也と荒れ
下前の糸色をひきや春の雪　　一笑
うぐひすや梅の際を下駄の跡　　李由
羽子板の箱をうけたり春の雪　　伊賀 魚日
俵雪や一つうごかぬ雪の重　　京 吾仲
傘花雨ぐ庵ちやふの山よ　　尾張 嵐蘭
凍毎や去るとあらぬ梅ぬと　　己静
学ぶ浮ぶと毎の氷うれ　　去芳
　　小枝

凍毎

凍ぐるや去るとの形ふの山ぐ笠　　越後 一海
旅子帰て次の入るる氷うれ　　京 仙行
ぬるるまよ氷ふ〻路川の那　　徐爽
乗掛やめぐる越の山枝の皮　　己筑
越深の小川も出る水ぬるる　　近江 宜幾
ぬるる出ぬ比や深も出つ丈　　丹後 阿許
役りおぐく数ぐく水ぬるる　　天保 文水
ぬるるぐらと沼の枯木も霞ぐら　　松風
雲ぬるしや宿も丈山も胡の尾　　芭蕉
霞り梁口枝点於の山ぐ　　言水

清夜

老里の麦や菜畑や朝ぼらけ
月明て射て来ひく花かたそ夏
紫水仙立枝もうるや初霞
仲り帆の枝くやくくと夕かすと
ゆくと有ふと来ふ霞うれ
海波の立かうてや鮫人
帆筏ふる蘇蘇のとるや朝の夢
霧ふへうの穴後し宵の月
夕ふ如雲我を後は清人
我ち仏後と枝ひ人夕の夜

寿九三

紀伊 名草
荷ノ
布河
江戸 雪醉
加賀安 すゝ又
、後川
丹後 尺布
光後 坐泉
京 子風
蘇爽

長閑

の時ふさや海の〜ひく海苔よ公
也果さに和も芝ゆめ胡蝶ふ
長閑さや竜の移ふも三ケ一
ふ移ふや田の弁当海ふ水
ふうるや如帝よ動く仲の石
也果こ一さ〜〜ゆく銭乃
ゆふ〜さや宮ふ〜ふも芝如
長閑ちや美よさちて海苔雪
ゆふ〜ふ如接の〜ふ海
暖ふ寺ふ〜ふ衣泳ふれ

近江 木節
三河 杜園
利牛
伊勢 一有
頑亀
歩尤
上毛 雨什
越後 常國
洛水
京 秋風

暖

係寒

冴かへる

佐保姫

二月

文彩　江戸 仙化
孤歩　乙由
文嘉　文子　肥前 泥足
嵐蹄

二日矣

初午

釋奠

新の能

きさらぎや身も心も浮き浮き
新の恵方し吹二日矣うれし
きさらぎや御戸開
初午や下の句を辞て長者新
はつもうや赤の仮
きさらぎや祈願よ化る社殿
聖廟よ市まゝく繁の被れ
釋奠や改もらふもそのまゝ
北こゝろの地志さうれる蘭の形
俳優の顔と学ぶうきさらぎ

近江 千那　伊勢 意士　肥坂　吾仲　赤 山只　也有　其角　江戸 宗子　治徳　徠爰

二月堂修法

水とりやこもりの僧の沓のおと　芭蕉

香汁に若狭の水かつめたさよ　玄梅

嵯峨抱松明

松明や竹林の夕あかり　京 方山

春雨にいかに山風の火ちらし　〃 尹明

涅槃會

獣も乳ぶ龍あり涅槃像　季吟

涅槃会や皺手合する珠数の音　芭蕉

孫子ともなくて死し涅槃かな　伊賀 荻子

衣見るにありさ涅槃像　風女

乙女も泣くて涅槃かな　己百

木仏も釈迦も泣き涅槃かな　許六

涅槃会や片肌脱く羅漢力あり　若狭 樹杖

涅槃像しら露の釈迦の立仏　春雄 尨次

梅さく涅槃の涅槃像　すゞ

涅槃会や土の東の文日の光　言水

大仏や横に寝給ふ御入滅　出羽 不玉

古仏ありて死ぬるや涅槃像　乙由

手枕の楽しさ知るや涅槃かな　木因

昼寝するは見えや二月涅槃像　伊勢 反川

涅槃会や釈迦も見てと尾花とも　入楚

涅槃会や雲の花ちる薬取りけり　江戸 止弦

如月の秋のちれまやちかけれ　京　秋雁
貝らもやちらくさそう撫貝　越後　車庵
撫さくさくよ孫荒の彼岸ゞ　友秀
何越乃さく彼岸の八日八たり　宗英
之金の法解しる彼岸れ　吾仲
うくうちれ花を寒しひう八の彼　丹後　季友
れ八のと念仏踊衣桐杉ゆう　嵐雪
伝蛙酒やれ月の中利て来る　伝法　友撫
月ゆくせ撫の高ろ彼ろ月　京　壺水
流れのうくうれ彼ろれ月　右根

新菜種部

貝寄風

彼岸

念仏踊

法蛙酒

捲月

梅の花や玉付墨衣捲月　芭蕉
夕風ゆ伝次ゆく梅ろはな　小枝
梅近くく撫ゆ梅ゆ捲月　言水
ゆ風呂よ夏乃捲月和れ　友秀
蛙たゞ耳ゆ花ゆ伝ゆ捲ゆ　玄来
茶の花ゆ伝ゆ捲ゆ月　春川
麦うの入ろうてゆ捲つま　丶
青空ゆ撫よ出ゆ花ゆて今　惟然
海棠の花ゆ伝ゆ捲ゆ　江戸　水我
伝ゆ白ゆてゆく捲月　如雲

[illegible]
[illegible]
何地へか水[illegible]に[illegible]月
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 宗長
[illegible] 徐寅
[illegible] 布周
[illegible] 范字
春波
伊勢 梅路
[illegible]元
可風
[illegible]白
秋瓜

出代

[illegible]
[illegible]
出かるや[illegible]月
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 大葉
三河 采林
嵐雪
[illegible] 千那
[illegible] 諸
[illegible] 李由
江戸 蕭山
木導
[illegible] 許六
[illegible] 朱拙

陽炎

出かたやゆふ傾城とかう傾城
もの〳〵やゆ様ゆ様ゆ様の汁
お勢やゆ一ものゆふしを拾てり
お代君遊や泊船の船ひき
出かたやゆ出かたの雨とゆ出ゆ
出代のゆふ名とへは尋ゆふ
も勢に加〳〵切来と押と竜
牛の氣ゆふ〳〵出勢ゆ男ゆ
拭八〳〵ゆ戸ゆも勢の気弱氣
かゆふゆ来於の京式陽ゆふ

永友元 江戸 魏翁 伊勢 芦本
乙由
了人
かが賀 不芝
紀州 伊風
和泉 吳一
伊勢 二曲
芭蕉

かけゆふの我肩ゆふ紙衣ゆ
阿炎や泊ゆ〳〵ゆ出ゆ屋の砂
ゆ汁泊ゆ泊ゆ波風の乱ゆ如意宝珠
かゆふゆ陽炎や蜃のゆ出ゆ夜の雨
陽炎や赤衣ゆ人のゆ〳〵ゆ
糸柱やに〳〵紀蔵の人衣影
ゆ出ゆふの小高紀屋ゆ〳〵ゆ
糸遊やきゆて〳〵ゆ盃根の上
ゆ〳〵ゆ人ゆ動〳〵や去年の古蔵
阿炎やゆ出の紙乃ゆ〳〵ゆ

、 大江方
許六
、 板風
乙物
紀伊 天無
江戸 立志
、 乱絲
、 傘下

かはやの川の流れに鮎うつ
の音ろろ去の白ひや車道
功美や横ゝ伸しうる河の桶
加市流ふや二抱はく所新
鶯化して花の代あり姥の老
胡鶯や出るも戻るも小くうう
さやあさの尾はけうる白尾ぶ
ゆくべく冬を枝折や沖の杭
おろ〻川都三月さつ沖の山
高清く大声あく鳥小名ろ孔

范学
播广 菁山
東 亜瓜
周防 枝系
かが 其友
貞位
肥水
江戸 鶏口
紀州 凝鉄
桃隣

春九九

鶯化して姥と成
胡鶯
雉尾鶯
沖の杭
沖の山
鶯の鳴

鳥交
鶯の巣

鳴やすうゝ鶯ちろふ涙さく先
つゝ巣ふ鶯や鶯たゞも巣の鶯
巣をさうふ鶯の巣をうる一造他
巣風ゝ巣さへ巣花うゝ
糸柳巣ゝ引ゝ乱ゝ先ぶ
鶯巣の巣一筋の鳴ゝ祭
鳥の巣や鶯弾の立ゝかゝ屑
鶯くふゝ巣ゝ恐ゝ鶯の巣
何巣の巣ハたゝさそ鶯巣
折ひろとこのうゝ鶯の声

尾張 蕉堂
京 宗鳥
周防 為有
山城
長崎 可吟
下野 春雨
江戸 芋月
芭蕉
涼菟
千那

[illegible]

玄来　其角

[illegible]　入山
肥坡

[illegible]　怪岳
荻人

[illegible]　肥明
岩虎
巴静

燕

秋ぞ[illegible]は燕〜好へ〜旋子の色
加[illegible]へ[illegible]事を[illegible]し[illegible]旅子[illegible]
[illegible]旅子の[illegible]
峠沢の[illegible]〜静さと旋子の聲
[illegible]の声
[illegible]事[illegible]一[illegible]
何[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　湛園
[illegible]　千代
[illegible]　周休
[illegible]　[illegible]
[illegible]　風更
[illegible]　桐雨
[illegible]　涼菟
[illegible]　芭蕉
[illegible]　[illegible]
玄来

[illegible]子我教の方の俳諧
乙女や四とせ経りて[illegible]の記
お女房化粧の中や兎つた先
蔦や徒らに来らて長き日も
山の端につたえたかへ[illegible]へ乳
巣部中や見我和と釈つため
実留りたく出る乙女の
乙女や巣の中さ巣 私語
[illegible]りあれて[illegible]
[illegible]何我[illegible]かへて

舍鼠
山椒 鼓寺
木導
[illegible]
[illegible]角
峯嵐
風鈴
[illegible]女 老の
小春
乙也

[illegible]
箱鳥
[illegible]

帰雁

[illegible]の中に枝さ[illegible]
[illegible]
市[illegible]
[illegible]
果[illegible]
[illegible]
子代[illegible]
麦[illegible]
[illegible]
帰[illegible]

[illegible]
乙兒
[illegible]和巾
可枝
曽良
[illegible]
丙治
野水
涼菟
文革

加へ春そめあれまち屋と波のさま
俳る屋米つまさ古ひや苅ふ
夜通しに行の我酒丁のいさ紀ぶ
立さハくゝ今や紀の屋伊勢の丁
たゝ立ち麦の弟ちかくる屋
何事と田螺ほりくゝ蛙ら
蛟礼とこゝ出交り刈俳屋ぶ
きろ〳〵と移尺ゝ春かくる丁
友減くゝ帝吉ゝ分や酒ゝ加ら
伸ゝ立ち鳥蛙と一人衣立塔ぶ

太未　伊賀　長崎　江戸　武中
壬角　浪化　雀雑　荊口　子英　嵐雪　朱拙　貝藻　鬼青

雲雀

まるくゝ日如麦春代海ら屋
糸市や拙も分長時ひゝら
出ゝ日我鳴ら大ゝ雀ぶ
時〳〵ゝ風ゝ流ゝひゝらぶ
夕雲ゝ花日新迄ゝくゝより
孤長麦ゝ落ゝつ戸ゝ夕雲雀
糸雲ゝ出くゝ加ゝゝら雲花ぶ
きゝふゝゝ又ゝ俳子ゝら日ゝ時ゝ
三日月ゝ踏ゝく落ゝ鳥ゝらぶ
枝の木我ゝ紀紀ゝゝら雲花ぶ

京尼　江戸　安　江戸　京
諸九　孤屋　性急　いち　如泉　三千風
芭蕉　之名　　　　　　　冰花

鶯

子やまうとあまうを花の子
春風にうかうかとぶ雲雀哉　枝風
馬ぞ拍子ふみ出す春の野の
日中の春に乗るひばりの影　秋水
作向ひ度く天に登るひばり　李中
夕ぐれを雲の日和哉ひばり　尾張　蘇山
作向を下りるも高く雲雀哉　伯中　除風
氣ぞうに高く仕上げるひばり　加賀　乙甫
申刻つ夜よりふる雨花の雲　伊賀　桂梁
花の雲鶯の聚の哉　尾張　紀六
千代
山只

駒

花の子

蝶

駒の名は花の子ひらり岩の上
春もまいさむや駒の春
花ふるく高く嘶かぬ嵐哉　芭蕉
人の秋乃孤ひらり花の子　尾張　紀六
春や姉よりひい駒の槌　伊賀　搗市
稼ぎ以ぬ馬ぬ乳　湖春
起ちく我友よ人ぬる蝶　芭蕉
春雨よいらく蝶ぬこてらい　嵐雪
酒くさい人よ加ぬ蝶乳　丸雪
ぬ加ぬ乃蝶ぬこの胡蝶ぬ　乙狗

浅中　その山名

[illegible]麦の畝やふ胡蝶ぶり　曾良
吹まりてら[illegible]蝶も[illegible]蝶れ　柳葉（伊賀）
[illegible]うとまもしく[illegible]蝶　蜆聲
[illegible]蝶　千角
蝶〳〵や[illegible]日のたそやき　紫道
[illegible]も[illegible]蝶ぶり　未因（出羽）
[illegible]蝶の[illegible]ぶり　室行
[illegible]花と[illegible]胡蝶ぶり　柳居
道芝[illegible]蝶のてら　蓮之
蝶〳〵や[illegible]人を[illegible]ぶり　丁湖（江戸）

何の[illegible]き心〳〵蝶の[illegible]　己笑
蝶〳〵や[illegible]　秋凡
[illegible]や[illegible]出て[illegible]雨[illegible]　烏明（江戸）
蝶〳〵や女子の道[illegible]　子代（京女）
蝶〳〵や[illegible]　琴之（懐楽）
[illegible]て傘の上[illegible]胡蝶[illegible]　白石
山吹よ何[illegible]いら[illegible]蝶の[illegible]　魚日（京）
蝶の巣や一[illegible]　楽二（濃州）
蜂や巣や蜀[illegible]　杜湖
乾の目の何[illegible]子会[illegible]　友考

蛙

作向て走寄てりく〻や蛙の足
能の姿情子の彼もと弱る丸
丸分ぬ公くうふかゝれ
格ゝうゝ人て静る蛙の那
西の蛙あるゝ所も家と
業形花蛙者も対て有蛙
あ加こ蛙なく江八里の数
峠立て入れ吟ぬかゝれ
乗入て蛙うれ
きろ〻吹我頬ゝ蛙の那

云方　お花　名強
文草
涼菱
江戸　素芝
李由
芝角
京伝　蕗梧
、
嵐葉

青蛙

和歌の喧嘩ゝ蛙乱
久久仏者角戸よ蛙ゝ
蓬ゝ蛙り
田残蛙ゝ帯ゝ蛙乱
いくゝ蛙ゝ蛙ゝ乱
朝つく日背中の光蛙の那
弦掛ゝ日残峠ゝ蛙ゝ
ゝ蛙ゝ
傘弦蛙ゝ合ゝ蛙ゝ乱
ゝ蛙ゝ蛙ゝ

山林　蛙也
孫栄　西吟
言水
北枝
太祇
乙州
乙由
芦本
江戸　貞佐
伏中　麻父

蛙子

地虫出る

田螺

徒夜の水さへうごく蛙かな　秋瓜

宵闇や家残端れてなく蛙　武蔵 風律

一思案出来て気ちむ蛙の聲　伝法 鶴山

立よれば水に集まるかはづかな　肥後 蒙里

かへる子にうれしさ見えて水くさ　伴亭

出川やさらくし黒む蛙の子　信濃 砂陸

蛙子や何處へ去り水の草　綵女

おとろへし虫ふけや人戯るし　未山

あさき穴よ冬むてや蛇の雨　丹後 朱陌

つふつふと泥吹く畔の田かな　四朧

鍾

初鮒

鮑

飯蛸

ゆふべ端あまりける田かな　猿雖

京政の行閏我指ふ田螺かな　壱角

ぬれ立の鱗を出る田螺かな　十文

まるくと蓋しる熟田かな　肥後 如作

泥水へ出ると流るゝたにしかな　心誠

ぬらと執獄て丸尾て田螺かな　信濃 千文

雄鰹か黒木とやらん刀一把　曽北

さ川鮒衣独活に加く鱠かれ　逐雲

若鮎の中に紀うろりこれ　近江 青嵜

飯蛸の三の盃や茶くも果るきる　未山

猫の恋

仮章魚や八道の品の古めるも　正法 惟烈
猫の妻宮の竈の嗣をうら恋しうら　芭蕉
咲もり来てやさくらや猫の恋　太素
猫の子参能の貝やかさ折し　江戸 秀知
孫このこ初まう峠て衰こ　耽坡
西方うり桑う有し猫恋こし　来山
うち死高たてや猫の姿こし　支考
うち形くまうふ猫の法りふ　尚白
二三日内ふも居こ孫こ衰恋　舎羅
日南ふも屋のすりふ猫恋恋　兎角

たや色よ出るや猫恋あかう　泥牛
猫のこひ嵐を所こあまし　琴路
為もこ色ふ猫の公恋知ふ　江戸女 秋色
うやふ猫の恋猫の恋　載人
おろ〳〵妻よ猫恋　車庸
猫の恋信〳〵仮を喰よう　及朱
別まうく西うやう猫の恋　林石
朝の妻ふ為こ猫の目ふ　兎士
康別まうの目ふ猫の恋　嵐七
猫のうち色仮紅ふ人よ立りう　京 文石

春の角

何の日の風ふり落ちて春の角
やさしうれ笠まよ落ちや春の角
玄哉もしら角を悔てや春の角

角落ちて三日月こそ男春
けの落ちやさしくもみ女小春
春しるや蓋ふりうち氣の角
角落ちて月のうゝけく鹿農新

初雷

神鳴や一新ものさえのへう
雷農もれ出てけさうへし
かみなりや出て先て新と春

猿雖 武中
雲江 伊賀
白仏
朱拙
蕉笠
魯九
蝶夏
去来
涼菱
秋坊

初梅

初春の日ふれて法の赤さえ
初梅や法ふれ法さ八教仕事
紅梅や宮ゝ法の赤のゝ
初春やうもいや句事ふ山家梅
初梅やりゝ法うへ新春ふ
黄梅やゝ春もの梅ふ
初梅八京の法ゝへの好
咲ゝゝ桃の弟ゝゝ梅

黄梅
初桜

去来 長崎
知行 武中
浮仙
幸子
以梅
布舟 摂津
冬柏
芦水 近江
知及 京
芭蕉

先つ[illegible]の蒼きてつとそ初さくら
[illegible]の[illegible]
[illegible]桜
[illegible]
[illegible]
人[illegible]家も[illegible]
たく戻る[illegible]
泉せ孫あ[illegible]桜
[illegible]
[illegible]の桜やいきく

一笑　千那
伊賀　利雪
　　冤蕉
　　乙州
　　治佐
　　千代
武蔵　山石芝
出羽　風早
　　乙州

彼岸桜

糸桜

椿

糸桜　船[illegible]
而筋も[illegible]
雨の日も[illegible]糸桜
[illegible]
云入[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、　地坡
　　冤士
　　芭蕉
近江　曲翠
　　正秀
江戸　治逢
　　地坡
、　支考

文の海かゝ椿を道さくりけゝ花
一部ゝうちやゝ日うゝの赤樣
今新さゝも蓋方花つも花ゝ
はゝさゝ卯の如き乃ゝ出水ゝ
さゝ松ゝ直ゝ乃ゝも折しゝ
乃ゝゝ乃ゝ荒松ゝ乃ゝ接木ゝ
餘の巣代やゝ乃ゝ接木ゝ
苗代と乃ゝ知る森の石乃
乃ゝ乃ゝ和のゝ書し苗代田
苗代やゝ乃ゝ新もゝ地

さゝ木　利牛　太来
接木　近江 巨海　尾張 舟泉
苗代　一笑　乃宮
加賀 芦丸　文考
、　許六

巻四十

苗代や東寺の塔の水うゝ乃
乃ハゝうやゝ豆のやゝ乃足の沈
苗代ゝいゝゝゝ水のゝゝゝ
苗代の毛掃よゝ新書ゝ乃
苗ゝうゝ踏んゝゝゝ踏乃
苗代やゝ旅ゝ乃ゝ里の新
畷ゝうゝ義今ゝゝゝ流ゝ川
畷ゝ巣ゝ湖の水引ゝゝ
小重ゝ乃ゝ出ゝ岩ゝゝ乃
稗下ゝ俵ゝゝゝゝ小搗ゝ

近江 朱迪　飛坡
子英　幽泉
書石
土佐 子海
前口
佐渡 文竿
武蔵 拂儿
千角

畷ゝ
水口祭
種下ゝ

種こう

稗蒔

稗芋

畑打

稗漬て清し法師先る秋川少　京　辨石

稗かりやたゝ神宮へ一住のこ　尾角

麻蒔や蓮ほこ舞の分あるも　上野　曉雨

稗まれや磨の外り雨もに　伊勢　氏古

たゝ芋や花のさらす茂麦あり　武蔵　芭蕉

稗芋や植る先うゝ芳ゝ咲る　吟風

勢くるも見へゝ畑打男れ　太来

ゆり上る秋の光りや蕎の秋　枚風

畑うちもゝつゝ此の蒔や川白　紅坊

てゝ打や蒔ゝ小豆賀の旅人　加賀　乃露

焼野

すゝき焼

山焼

のゝ人

胡葱

葱の実

貴方の法師先や小田の苗とに　江戸　意程

山焼の小松の残ふ焼野少　伊豆　石木

名残り山焼野ゝ焼野少　

ゝやゝ山ゝ吹出て焼野の末　常陸　猿雉

雨もしや古のまゝゝのゝ人ゝ　筑前　呼丁

山焼ゝ野ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝ少　水札

山焼や沼ゝ沼ゝ入日の淋ふり　常陸　魚日

焼野の義姫うへ土のゝ人ふ少　常陸　晨花

あゝ川ゝ山ゝ野ゝ焼ゝ白ゝ乳　伊勢　野明

焼のまて二夜森ゝ葱の実　伊勢　汀芳

伊賀　本残

独活
鳥芋
土筆
枸杞
青からし

香我抄き垣をこえさる芽立かな　来山
尋ぬや古寺の下の独活の花　枚風
俵子の供らを見ればやく八かゐ塚　藤雉
土筆や横まてへるはくし　闌指
青の雨ふるや土筆の長さかな　尾張 塩車
はらし爪紅のまゝ蘇られ　支考
筆まくく何もさぞやつくし　千代
道くゑたなさとちる枸杞かな　治佑
如のまきをの志しの杉かなら　近江 馬瓢
かしくやまさりる旅子れ声　京 我黒

防風
蓮植る
山葵
蕣蒔く
芋かしら
蕨

今に見よ鼻をもちらる浜防風　越前 佳木
唐土の根りちるもや浜防風　越前 素竹
陰ふかうや須磨の浜道をさしあはひ　京 都山
極楽の指先や蓮の指所　文考
泥亀の旅と打へてなきさかな　之角
三寒り追れく鳥の若葉かな　尾張 紀来
もて八滝の枕や草のこゝろ葉　傚素如
芳しい紀の手や花かなき好きひ　三河 之沖
浅ましと鏡地まてやむ蕨かな　江戸 由之
敷ろ子り極ろ手を出しつゝひかな　去芳

物春の蕗てり葉に蔵の丸　花雲
仙人の碁を指さして蔵ら　葉雪
ま蔵や笑ふら山君指ら　正秀

そつく我家の梅ふうきを　京　黄山
凡石や見る動き給の孫海苔　伊勢　志山

たんぽや葉を下まで咲て形ら　秋仙
敲まや鎌も一さし鶏さし　出羽　鶯宿
ぎんぼや茶さしらく伸ら　上野　雲雨
菜の花や流れ加つる方に水　言水
かぶもや一本咲し松の下　宗因

うぐ車
紅紫
蕗の英
菜の花

菜の花や小屋ら出ら出つる
大根の花
菜の花や枝葉の去まの乃ゝに
菜の花や戸口乃外て出ら乃
菜のもや西よ世西敷屋の徒
かぶらや赫奕ゝて古ひ川
大根の花や小家の隙を出ら
菜の花の在家より出る八日ら乳
かぶらや麦よ海ゝて古ひ峡
菜のもや鳥の巣ら乃ゝ牛ゝ来る
蕗たらもちりよゝ心さゝ去大根

尾張　史邦
尾張　長虹
近江　嵐雪
越前　越葉
尾張　挿石
尾張　以之
駿河　浅々
江戸　玄武
蝶夢
乃竜

菊

海雲

苣

紫蘭

あるやうに大根の花のさくら色
葉のふるひ引きまはしの様大根
いとゝ京咲そふ拍も見あきと
葉を刺心伝ふ伝ひ流この邪
学問あるたれひく海をぐら
地蔵を海の星やや海雲汁
大内先や在ゝきく苣の一葉て
いとの雨のあ尺ゝ蘭うれ
夕美花あるれきや風巾
いきれかく白根ゝ嶽とけ赤ゝ

曾北　アさん
山城　荒雀
夕考
流字
巴静
武蔵　韋吹
江戸　しゝ
戈丸
拙妖

春四十四

風巾ひのへゝ丹ゝる小川うれ
れ巾引きまはのやや星の教
とらゝ西を西ゝ丹ゝる風巾
ゝゝれやゝれ在の在れひのゝり
書花鶴我ゝ弟てや京ゝれ巾
信ゝゝゝり糸を対てや雷書
ふ拭塔孔風の書ゝ花ゝ
吹ゝ　ゝゝ毛ゝ歌孔ゝれ巾
たゝ泳てゝれ京てひのゝり
糸引ゝ日ゝかゝゝや風巾

舎鶏　風園
三河　拙先
秋の坊
武蔵　東吾
尾張　理兎
嵐枝
子代
尾張　阿當
京　用舟

三月

上巳の節　照り吹く桃蕾八重の花白ぶ　方山

一日も桃あり清きを新れ　近江 寧陀

曲水や筆の流れ御海水　角上

曲水　川下て幸を盃もさ先きり　義笠

曲水や岩より三川弧をえて　希因

曲水て桂流れ山陰れ　大光

弧　弧のとりて弧のまきり弧の新　丈角

弧の桂高樓の清しき

春四十五

春風てりこかくの弧の駕の流

花の子より鶯とせゆる弧れ　萩子

姉妹　高桂の弧の屏風ぶ　知行

高桂りのまま弧の屏風ぶ　斜顔

桂鶯や下臣よりとる高の弧　風國

弧の口紅つか射く至よきり　太未

弧立ちく居よりる姫の子　大和 天弓

氣りの一位る弧きり　安芳 あん

抱いて中れり弧れ　武後 嵐汀

弧り男せう女や弧ひく那　許虹

乙兒

草の餅

嵐雪　乙由　近江 仰適　理兆　馬六　京 七哦　但馬 乙柳　京 一桂　之角

椿つゝ
抑太刀
鶉合

春四十七

猪苓もいつに若くしかりう合
衣〳〵ぬ浦〳〵根らう鶉あハせ
若八の日又住のとしゝう鶉合
青蕉の沢よりてゝ沢干ル
ゝう帆の浦浜ゝかれ湖干ル
鶏蕉すりそ浦へのん沢干ル
沙風ゝ松よりてゝ沢ひれ
三日月や沢干ゝゝの海よ来
走ゝゝたりゝの沢干や田植後
常海ゝ川のなゝ衛干ル

沙干

江戸 峯白　婆公　天法 君望　色蕉　玄来　如泉　風休　木因　仏我　治徳

色の〳〵を古地に尺て表る波ニテ
彩田は有〳〵中〳〵古屋ひろれ
今うもちよ松原さき表波ニテ
入き地のかゝくとゆる波テ表
心浪の人てり迫表右ひろれ
青〳〵と空ちゝへる波ニテ
表佐の法華経　近江　代木
壬生念佛　筑後　峯白
御身拭　肥前　乃露
　　筑後　卷士
　　筑後　春雨
　　伯耆　仙李
　　江戸　梅川
　　京　太祇
　　近江　菊二
　　摂津　白扇

春四十七

峯入

永き日

峯入や高き所に宿る雲　宗因
峯入や新古光分る　螢雪　古芳
永き日や子よにあひて夕焉　江戸　道春
永き日や仏去る木のよりる言　肥水
撫法表と衣れてる日のもさ　許六
永き日や清つく沼も寄ゝ　上技
永き日や蝶とつれ別れ田の稚　朱迪
永き日や地獄事て蛾の波　素丸
長き日や なれ次第の釈ふ　文素
春借〳〵尺ふれ　素のれ　阿誰

永き日や今の世の芳飛も雲の裏　下野　松路

春の日や老を忘れぬ老ぬ老ぬ　尚白

さらぬ日や菜の末畑に小法師　正秀

春の雨　加賀　見苑

あるかなきかに出て散る雨　玄旨

ゆかしれぬ麦のあをくと春の雨　芭蕉

春雨や蛙の菜つくふ振の濡　荊口

拍子木の音とまるや春の雨　枳風

春雨やくらがり坂を這入る石灯籠　文章

さる雨やかの男女ほの夜の宛　未山

春雨や火燵居ねへ居ねと出

月花の目玩や長者や長の雨　支考

代雨あるべくあるべんに日次られ　壬角

地ちくくに地蔵ちり春の雨光　一笑

さる雨やさるの公家かられ足　友元

ちりちりと傳ありて長や長の雨　木導

傘とぢてくくはくくや長の雨　白空

横ちりの公直ちやさるの数光　林子

柔よ近き遠き遠識ちり春雨　乙由

春雨や柔も拾くくと集てたく　相良　加賀

左山まで拾きこるくや長の雨　季布　越中

春雨や四条のやう木履　北溟（加賀人）
閑性の粥よおもはくさ哉のあめ　素風
紙子さうめんの糸の糸の雨　杜羽
春雨や笑ひ拍子の雨　千代
夕飯を食てさまたけう春の雨　（紀伊）挑花
春雨や出はへ来てそ浦さ美哀　（陸奥）文芝
一日の内ゑ晴くとや春の雨　蝶夏
春の雨舟さくや春雨　（出羽）惟中
春の雨よくそ火燵を塞ぐさう　調来
ふく病ゑうし哀なる哀の雨　子那

別巻

田植歌成　入楚
郭公の巣　茂秋
考れば巣　北枝
鳥帰る　木巨（紀州）
雲今　苔峨
麦鶉　千角
呼子鳥　朱拙
万子
（駿河）巴静
万湖

桜貝　三十風
櫻詰　法花　西鶴
　　尾張　休夜
桜の子ちりてや磯のさゝ貝　李老
ちりこやの石の鶴のむさゝり　琴風
桜鯛　笑ひく来てよろしつ重し　加賀　兼吹
一羽り桜うくかと咲もりう　嵐雪
桜の水よ秋の木ぶかと松鶴　但馬　翠樹
ゆまさもも春の紫重り　李寄
おくれ有る春の鶴ひやら梁　圃水
ゆ実しさ来ちゝ法くゝ小鮎の飛

上つ梁
若鮎

汲鮎
炉塞
桑子

鮎の子はしたまゝ蓬の青　玄方
子鮎の数の一代角りたゝ数　才麿
蓬壺りの令歩こ也小鮎り乳　為有
ちゝ数ゝ心ゝ　伊勢　東侍
くゝ鮎や松りひゝと入日影　元禄　鳥仙
青亭立ゝ也ゝ老ゝ法の名鮎　風休
炉塞の穴乃ゝ坂や青麦　万子
姫鮎ゝくゝ行ゝへてや樹の老　圓入
炉塞や麦の下茎節鮎豆　意程
楚ゝ数ゝ古代のゝゝ心　曽良

桑摘

若和布

休ミなら市に路とる蚕かな　若狭 味両

寐て起て喰てゝまた桑子かな　越中 去足

下葉の色ありてこく蠶の那　京 露也

まくさし蚕飼の家路深くら　青雨

三月や氏の宗色の桑一木　文字

桑はこや畑の丈ともくら　美濃 千川

桑つみや枝ありタ日のあかるさ　錬芝

糸和布清き浅瀬は汐までを　翠也

乙姫の手つ和布拾はまひろ　涼菟

一潮や和布ありて日和かな　出雲 一夢

浮世初

桃

こゝ数年やまたしも遠ふ世所　江戸 支波

恐れしと句ふて見れし桃の花　木周

隣喰め旅人去がしもと花　文考

恋桃や雲も藤と水茂と　桃隣

森の稗毎年咲ける桃の花　利牛

樹きけく向うに出るや桃の花　涼菟

大きく跳て家に入れし桃よも　荒躁

日すがら路を照らして来るや桃の花　飛坡

垣根ありいさ苦る桃の咲てし色　芦本

桃さくや畑の机乃根さしとん　乙史

花

かつしかや梅の梢をうつまはし　青北
鶯春波
鶯の鳴あり敷ら桃の花　十磨
大冬のこまく赤し梅乃花　文玄
雪ぬ春ぬ梅ぬ花ぬ　信德
鶯ぬけさの朝ぬ林う那　季吟
一僕し深くくあり花見ぬ　宗重軒
花ちらさ北ぬ八ぬ紀　常矩
忍あ梨て大のそ〻ぬ里ぬ分　我黒
花山や伊ぬ〻て春出所　宗因
咲ぬ〻に見ぬ忍の敷ぬ〻に

花の雲待ち上殿ぬ俄ぬ　芭蕉
雲ぬ雲ぬ花見の夜ぬ七ぬ情　〃
物ひ〻ぬ〻ら殿ぬ人ぬ忍見ぬ　野坡
ち〻ぬ遠ぬ忍のぬ〻ぬ〻ぬ一人　涼菟
花ちやぬ忍ぬ所殿はき合ぬ　去来
立枯の殿ぬ多ぬ〻ぬ忍ぬ中　〃
竹殿ぬ岩ぬ〻ぬ〻ぬ花野ぬ　丈艾
咏木ぬ忍ぬ枯木ぬ〻ぬ〻ぬ中　〃
花咲ぬ敷ぬ〻ぬ〻ぬ毛木ぬ　木節
峯の雲ぬ〻ぬ八ぬ〻ぬ文ぬ〻ぬ　野水

花に風かろくまてうけ河の泡　嵐雪
我身のうちも吉くに忍ぶ蓋　智月
雨風をこの頃まれ村うれ　三秀
花の春やうらやうらひろし井山　〃
素芝の猫まへうろうろ乙鳥　許六
蛍見に行舟のもとや花の春　半残
茶の雨小紙井くて帰るや　冰花
あつくの乙鳥ありけり花ぞう　史邦
花さうら大阪中りあるけり　板風
むしろ見くるあをもの佐見ん　青亜

かう居るも大切かなを花ぞ張　牡丹
一本桜くるくるくと忍ぶれ　浪化
ちるを和歌をのもる孤の上　京　暮四
腹意に神もれ会く忍ぶら　丁人
鬼の山京ら見人や踊る人　賀　友尚
花の宮あちらの山も乳かる　雨青
夜を明を忍の人る友し非　晩山
花の雲を一といの入日うれ　井七
松風りうれ忍の言を新　江戸　巳風
乞会と鞍鞍うの花の法　去仲

櫻

日出うらやひらくやうくうくうくうくの山
花ちるもとの木陰よあれ〳〵白
いさ初てくれ人ぬしせん山さくら
木のくれハけふ餞も出るうれし
夕くれ〳〵日暮の山櫻
散ちにさそ飛ちるやう櫻
明星や櫻さく先ぬ山うら
益ありさうひくの櫻うれし
そうしはさくうれ一きを櫻〳〵
名の分ぬ伝ぬ〳〵山さくら

素丸
武州 荷翠
江戸 一狄
芭蕉
来山
京 心素
乞角
去芳
晩山
湖春

春五十四

高砂今ひ〳〵枝ぬんちる櫻
櫻さくや加ぬ牛蛙白ひさ
散ぬ加ぬうるや投傘出るくら
いさく敷〳〵ぬるくぬを山櫻
風出の國守ぬるん山さ九〳〵
我咲くく開〳〵敷く花ぬ櫻
一枝ぬ折ぬるぬ〳〵山櫻
伐ぬ伐人の井〳〵ぬや出るら
山さく風徒よ江戸を流〳〵そ
ぬん初と笑ひ出〳〵ぬやぬ櫻

文子
江戸 酒也
不卜
一有
北枝
支考
尚白
徐寅
賀 弥子
乙也

遅桜

[illegible]の道を[illegible]や山さくら
やまぶき 何の[illegible]を遅つる[illegible]
[illegible]へて人の春戸くやう桜
[illegible]山桜
[illegible]山路や遅桜
[illegible]やまさくら
万日の人[illegible]ちらでやまさくら
[illegible]
[illegible]を遅ぶる
[illegible]
[illegible]

雪小　[illegible]士　希因　麻文　[illegible]　加賀 [illegible]角　朝宇　伊勢 [illegible]　[illegible]仙　加賀 宮中

梨花

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

五筑　志ゞ 九夕　許ゝ　友秀　吾仲　桜ゞ 以友　孫爰　永 重頼　尾州 希因　普東

海棠

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

海雲や高揉くらも高尽き
かい〳〵や石形小形もまつろ
風たくて爾る石形小
凡石もつくを辛夷のむすび
咲出る栄の石や礒碕山
新うに女松をそつ〳〵小
玄黍凡撲撲石礒碕小
山茶花ばしらけり尾の凡ぬ
山吉に花咲うなつ〳〵小
日の岡と越て吉や礒碕凡

辛夷

礒碕

（いわ）遠平
（枕）枕山
巴水
（上野）羽長
文草
尚白
（伊賀）弧休
拙丸
荷弓
希岡

山次

香久山に伊達か拍子つ小
山茶花や宇治の焙炉の白石
山姥や坂に捨つる義一竜
麦ふみきやくきやくと刈の上
山次や石のにひらもらをけ麦
山凡や たゝえく落石花の水
やうの凡や 箱根流石の川
山茶や 東の蒼のひくまで
麦畑の 秋かて萩の笑伝
山次や 湖流そる海と麦凡

（摂津）金竜
色蕉
（三河）岡指
白雲
怪拙
半残
白空
ひん
拙化
希岡

木瓜の花　　丈艽　可拾

沉丁花　　猿雖

木蓮歌　　若文

紫蘭　　子那

赤南志　　尚白

仙蓼萩　　鴉山

庭梅　　秋九

春五十七

あまひの花　　磯姫

藤防の花　　貞位

杏の花　　青西

李の花　　琴路

小米花　　孫霞

樒の花　　山夕

連翹　　湖春

馬酔木の花　　麦由

芳妍

今法
柿の花

山里や桃の花も今法めし　日向 唐雨
咲ふ時を限なく今又柿の花　越前 伯元
桃の花花とて人の戸ならぶ　助雄
人の求ふ人をすく郭柿の素　文素

忘れ
接草
九輪草

咲捨よ忘れも分れさくら草　播磨 素水
忘れ草ゆゑ伽藍や九輪草　摂津 桃茂
九輪草一尺人の丈高く　摂津 望桂
草の中にくれ高の丈きつの丈の花　近江 老蕉
笠の端に草の花　近江 探志

夏

郭公くるくる静るくらう夏の日　板風
義時や種麦よりくく蕎麦　前口 白雪
くんくんよりよ一塩をたやぬ夏の花　伊勢 朱友
甸甸とりあれやあれや夏の日さらり
蕎の花風よりさらく散よ花　武中 丙村
ちらちらや地よりや松よ夏の日　摂津 僅考
紫の万代ちてとりあれ蕎の花　伊勢 雲楽
夏の日ふらく義のあれくら　江戸 巳静
法よりくく竿にのけたや夏の日
白蕎や風吹くくたの川　江戸 巳人

菫

拘杞子の実拾ひ集めし夏の花　埼後　右之

何仏はの文よ古の菫少　忠好

山路来て何やゆかしすみれ草　芭蕉

旅子の尾花やちらす菫少　秋色

鬼灯の実に赤むすみれ　女　その

古き世はやらに咲く菫哉　芙雀

ちらして白ひ花ありまた菫の乳　上野女　一孔

種よ蒔く花の茅花少　仙台　椿子

地り山よ春を老てや茅花の穂　古仲

時ぬりの泥ちらす出く菫哉　日向　琴木

春五十九

拘杞子の実

柔摘

はつ春衣ちり出ちふ又加木少　仙台　浜水

花菖蒲ひてちふ柔つ少　京　古芳

胸ちは我古恋ちあて柔摘少　何扣

実加ちて彫木原ち文柔はち少　冰花

姑摩仏ちそ山ち紀菫ちれ　光琳　老士

菜ちち菫歌ち婚姻の日和少　京吹

旅人の一夏ちの文少菜摘ち　書雨

木ちちは嫁ちみちは生菫摘ち　京　文下

ほはめ

ほはめ先や拘へ山ちち菜つち　俳若芳

菜摘　嵐外
春菊　布舟
金銭花　松路
水仙花
菜植　生林　尾張
　　肅山　永
　　朋水　伊勢
さゝの雪　氷園　伊勢
房杖　乱休
　　萬北

房杖や阿波の内侍の白髪
寄麗物語麦まきの三菜苅
二菜ゝらの白髪三菜ゝ三菜ゝ
幼ハつり花野ゝらく義髪ゝ
糸桜と色ゝ咲て義髪ゝ
嫁ゝ女ゝ丁子ゝ
菜ゝ麦ゝ
菜苅ゝ麦ゝ
寄麦や海苔ゝ麦の波
麦ゝ初恋ゝの笠ゝ

三菜苅　東陽　伊勢
義髪　牡丹　伊勢
丁子ゝ　鶴鳴　伊勢
寄麦　一路　上州
　　梅若　駿河
　　寸馬　駿河
　　仙化
　　井七　安房
　　呂舟
　　吾朱

三月大根　　江戸　北鯤

七大根花の三月そら――ぶし　　可嘗

あまりさへ三つ大根ふる雨　　江戸　兎孫

ちまたの市うるまし三月菜

三月菜

金鳳花

さゝ子季

拘脊　　伊賀　文衆

芝蘇　　射江

若荷妹　　芝雀

妻山　　文秀

拘脊の孫帽子ぬく日和哉

芝蘇や鞍の俵の万ちら

什寺を何り肥こそ若荷妹

玉椿の椿椿り歩やめゝ弁

蝶を歩へ川ぎりやゝ山

春野

春の暮

男ゑ一夜寝てこん妻の山　　近江　小ゝめ

爭ふく泳ありくや春野山　　伊賀　有壞

砒素湯あり仕妻の肥ちこ　　許六

女さへ一京肩ゆく妻飛ぶ　　岩翁

木瓜あさ焼して乃ゝく飛ぶ女　　紀州尼　山居

春のゝやゝ川まの芋にかゝる　　羽紅

春椿のゝゝさゝ妻の暮　　尾張　山居

殺ひゝ川ゑ寝ゝ川ゆ夜ゑ妻の暮　　重五

あ風呂の畳伝ふ～春のゝゝ　　武州　兄休

花ちゝ跳屑変や妻の暮　　武州　橘古

行春

行春や鳥啼き魚の目は泪　芭蕉
春と春に初の蛙聞くら揚句　文考
ゆく春や惜しむに つく鐘の声　山川
山吹の実ふくれよ蕎麦の花　桃妖
行春も残るは春の松　文孝
行春を鳥うつさぬ障子　舟水
行春や鳥啼き魚の目は泪　李由
春と共に人も〳〵惜しみ哀　林和
ゆくさぐや大焼原の煙より　素心
行春や山かたぶくまで歩く　流芳

暮近し

三月尽

くれゆくや春のうさぎに夏火焼　宗端
口舌のうち孔も春の心残り　俊一
行春を蛙に惜しむ蛙かな　也有
行く春や鳥啼き魚の目は泪　文圃
行春や月のくまなき夜　横山
行春や鳥啼き魚の目は泪　山李
山伝や鶯もほのぼの夏ちかし　孤蓬
春雨の糸ちらちら降りより　等山
ゆく春や三月尽の嵐哉　乾爽
逝く〳〵日もふ打ちの夕ぐれ　秋之坊
　　松風

ア二五 ハ 36

白川堂
栢思

三十八

三月と又よ書のを見ゆる
春も書ふ系の加ゆるやれ中

玄東
汉之

春六十三